

ほっ。とエピソード

vol.3 震災時大活躍だったtwitter.

その時つぶやかれた感想をご紹介します。

■渋滞した交差点での出来事

一回の青信号で一台しか前に進めないなんてザラだったけど、誰もが譲り合い、穏やかに運転している姿に感動した。交通が五分以上完全マヒするシーンもあったけど、十時間の間、お礼以外のクラクションの音を耳にしなかった。恐怖と同時に心温まる時間で、日本がますます好きになつた。

■父親の行動

一階を下りて中部電力から関東に送電が始まってる話をしたら、普段はテレビも暖房も明かりもつけばなしの父親が、何も言わずに率先してコンセントを抜きに行った。少し感動した。

■パン屋

大学から徒歩で帰宅する道すがら、とつくに閉店したパン屋のおばちゃんが無料でパン配給していた。こんな喧嘩のなかでも自分にてきんことを見つけて実践している人に感動。心温まった。

■スーパーでの出来事

スーパーで無事買物できました。お客さんのほかとんが他の人の事を考えて必要最低限しか買わない感じだったのが感動しました。

■声をかけること

裏の家の高一になるお兄ちゃんに感動した。家

に一人で居たらしく、地震後すぐ自転車飛び出し、近所をひと回り。「大丈夫ですか?」と道路に逃げてきた人達にひたすら声を掛けていた。

あの時間には老人や母子しか居なかったから、声を掛けてくれただけでもホッとしたよ。ありがとう。

■開放

歩いて帰ろうって決めて甲州街道を西へ向かっていたとき、夜九時くらいなのに、ビルの前で会社をトイレと休憩所として開放してる所があった。社員さんが大声でその旨を歩く人に伝えていた。感動して泣きそうになった。

■パン屋

停電地区のほとんどの店が店を開めてる中、あるセブンイレブンが店内の陳列棚にいくつもろうそくを置いて、営業をしていた。レジが使えないために在庫確認用のハンディで値段確認し読み上げ、もう一人が電卓で計算、もう一人が懐中電灯で照らす。その状態でレジを二台稼働させていた。感動した。

■避難所

長女いわく、避難所に向かう時に、知らない人達と声を掛け合い、場所を教え合っていたそうです。日本人のいざという時の団結力を再認識しました。またまた日本も捨てたものではないです。

■御殿場

実際日本すごいよ。昨日信号が一方所も機能していない御殿場市でもお互いにドライバー同士譲り合ってたし、地元のおいちゃんおばあちゃんが手信号やつてくれたりで、混乱もなく本当感動した。九時間運転してたけど前車を煽るようなドライバーはもういなくなつたし、みんな譲り合い精神。

■「みんな」

みんな遅くまで帰れなかつたりしてすごく疲れているのに、苛立つ事なく、言葉遣いもふるまいも丁寧で、逆に氣遣われてしまった。「みんな大変だから」という「みんな」って意識があることに感動するし、私も受け継いで大事にしたい文化。

採用と教育

代表 半田 真仁



広島県出身。商事会社に在職中、日本キャリア開発協会認証のキャリアカウンセラー試験に合格、精神保健福祉士の資格も得た。2年間、福島県の若者自立相談員、就職サポートセンター特別職業相談員を務め、その後「採用と教育」を設立。組織活性化アドバイザーとして、多くの医療・福祉施設の活性化に携わっている。

◆URL <http://www.saiyoutokyouiku.com/>